

令和4年度 第1回銚子市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和4年8月5日(金)

午後1時30分 開 会 午後2時34分 閉 会

2 場 所

銚子市役所議会棟2階 全員協議会室

3 出席者

(構成員)

銚子市長	越 川 信 一
教育委員会	
教育長	石 川 善 昭
委 員	伊 藤 晴 美
委 員	安 藤 清
委 員	藤 本 一 雄
委 員	裕 崎 継 雄

(構成員以外の出席者)

副市長 島田重信、秘書広報課長 鴨作勝也、学校教育課長 高野美樹子、
社会教育課長 石田智己、教育総務室長 石毛秀明、
教育総務室主査 稲垣雅美、教育総務室主査 田村真文

4 協議事項等

- ① (仮称) 東部地区中学校統合準備委員会での決定事項について
- ② その他

5 会議の内容

【市長】

みなさんこんにちは。第9回目となります銚子市総合教育会議を開会させていただきます。

本日は教育長並びに各教育委員の皆様には大変お忙しい中、この会議にご出席を頂きましてありがとうございます。子ども達は現在夏休みということでございますけれども、新型コロナウイルスの第6波、第7波の大変な広がりの中で学校現場も大変ご苦労な事があったと考えております。学級や学校の閉鎖を余儀なくされた場面も多々ございました。現在はオミクロン株やBA5の特徴をとらえまして、with コロナの中で感染防止対策を図りつつ修学旅行や遠足、運動会、入学式、卒業式など学校の主要行事は通常どおりおこなうという段階に入ってきております。教育委員の皆様には各学校への訪問、あるいはさまざまなアドバイスやご協力をいただきながら学校教育を支援いただいております。また社会教育に対しても多大なるご貢献をいただいております。

ます。

さて、この総合教育会議でありますけれども、市長と教育委員会が連携をいたしまして、教育行政を推進するための会議であります。銚子市の、教育の向かうべき方向性や子供たちのいじめ、不登校、自殺、人権といった大変重い問題についても情報を共有しながら、より良い対応を図るための会議でもあります。本日は第9回目の会議となりますけれども、これまでの会議についてもこういった議題について意見交換をさせていただきました。前回は昨年3月でありますけれども、成人式のあり方、それから仮称ではありますが東部地区中学校のあり方について意見交換をさせていただいたところでございます。

本日は6月24日の第2回統合準備委員会での意見のとりまとめをもとに、これまで（仮称）東部地区中学校としてまいりました統合校の校名について意見交換をさせていただきます。総合教育会議として方向性を見出していきたいと考えております。合わせて7月28日の第3回統合準備委員会で校章・校歌・制服についても意見のとりまとめがおこなわれると伺っておりますので、それにつきましても改めて意見交換をさせていただきたいという風に考えています。どうぞよろしく願いいたします。

では、はじめに（仮称）東部地区統合準備委員会での決定事項についてを議題とさせていただきます。まず学校教育課長の方から説明をお願いします。

【学校教育課長】

（仮称）東部地区中学校統合準備委員会での決定事項についてご説明いたします。

（仮称）東部地区中学校の校名につきましては、令和3年7月30日の市長協議におきまして銚子西中学校と同様に新設校の校名は統合準備委員会などで十分な協議とコンセンサスを図った上で決定すること、という協議結果が出ましたのでそれを踏まえ、学校や地区の体制も新たになった本年5月に（仮称）東部地区中学校統合準備委員会を設置し、協議してまいりました。

統合準備委員会のメンバーは一中、二中、三中、銚子中学校区の各小中学校長10名、同じく一中、二中、三中、銚子中学校区の各小中学校のPTA代表10名、一中、二中、三中、銚子中学校区の各地区の代表4名の計24名で構成されております。これは銚子西中学校統合準備委員会と同じ構成となっております。今年度の統合準備委員会では、まず統合校の校名、そして校歌・校章及び制服について検討しております。

第1回統合準備委員会は令和4年5月27日に開催いたしまして、24名中1名欠席がございましたが23名の委員が参加されました。ここでは統合準備委員会設置の経緯や、今まで進めてまいりました四中、八中の統合及び五中、六中、七中の統合において校名、校章、校歌、制服などをどのような経緯で決定してきたのかという事を説明しました。また、第2回の統合準備委員会で校名について協議をするので第2回統合準備委員会までの約1か月の間でご意見をまとめてきて欲しいという事を事前にお伝えいたしました。その際に、統合校の校名は銚子中学校でもよいのかという質問がございまして、統合準備委員会で十分協議された上で決定されたのであれば銚子中学校という名称でも構わないということをお伝えいたしました。

続いて令和4年6月24日に第2回の統合準備委員会を開催いたしまして、24名全員の委員が参加されました。協議では統合校の校名について委員お一人お一人からさまざまな意見が出されましたが、最終的には全会一致で統合校の校名が銚子市立銚子中学校に決定されました。委員の皆様が銚子中学校に決定した主な意見・理由は次

の2点です。1つ目ですけれども、校名等を変えるための時間と費用を学校環境の充実に向けて子ども達のために費やして欲しい、というものです。2つ目は、銚子中学校は開校してまだ10年、ようやく親しまれてきた所であり同じ場所で校名が何度も変わるのには卒業生や地域の方の親しみが薄れてしまう懸念がある、という意見です。また、シンボルとして伝統のある銚子の地名があった方がよい、という意見や、直近の出生数を踏まえて銚子市全体の将来的な姿を考えると中学校が市内1校になる可能性があるため銚子を代表するような名前がよい、などの意見もございました。

続いて、令和4年7月28日に開催した第3回統合準備委員会は欠席4名で20名の委員が参加されました。協議ではまず統合校の制服について協議をおこないました。制服につきましてはこちらも委員一人ずつ意見を述べていただき、20名中19名の委員が現在の銚子中学校のものでよい、1名は変更してもよいのではないかという意見でしたが最終的には現在の銚子中学校のものを使用する、ということに決定しました。前面右側に制服の模型がありますけれども、こちらが現在の銚子中学校の制服となっております。この模型の制服ですけれども開校時に作成されたものになります。模型の女子の制服はスカートになっておりますが、現在は女子用のスラックスも用意されております。制服に関しての委員の皆様からの主な意見は、校名同様に変更する時間や費用を子ども達のために費やして欲しい、というものでした。他にも、現在の銚子中学校の制服は時代にあったものであり変更する必要がないのでは、また、兄弟姉妹のものを使用できるので変えない方がよい、などの意見が出されました。

次に校章ですけれども、制服と同様に変更する時間や費用を子ども達のために費やして欲しいという意見が出され、現在の銚子中学校のものを使用することが決定しました。お手元の資料にあるこちらが銚子中学校の校章になります。

最後、校歌についてですけれども、こちらも銚子中学校のものを使用するという事で決定いたしました。折角の機会ですので、銚子中学校の校歌に少し耳を傾けていただければと思います。1番のみ、流させていただきます。

(銚子中学校の校歌が流れる)

【学校教育課長】

こちらにつきましても委員の皆様から制服同様、費用や時間の面から変更する必要はないというご意見、そしてただいまお聞きいただいたように銚子中学校の校歌の歌詞の中には犬吠、太平洋、屏風ヶ浦、利根川など銚子市全体の事が含まれているので、統合校である新たな銚子中学校にふさわしい、というご意見もございました。

統合準備委員会での協議内容については以上になります。今後は8月の教育委員会定例会におきまして一中、二中、三中、銚子中学校を廃止して新たに銚子中学校を設立するという中学校条例の一部を改正する条例制定についてご承認をいただいた後、9月議会に上程いたしまして統合校の校名を決定する、という流れで進めていきたいと考えております。

以上で説明を終わります。よろしくご協議のほど、お願いします。

【市長】

ありがとうございました。私の方から1点確認させていただきたいんですけれども、制服の女子のスラックスも新たに作られたという事なんですが、基本的には男子のデ

ザインと同じですか、それとも女子専用のものになっているんですか。

【伊藤委員】

女子用にデザインされたものになっていると思います。

【市長】

先に教育委員会さんの方から今の説明に対するご意見などをお伺いいたしまして、最後に私の方の意見を申し上げて意見交換をさせていただきたいと思います。順番に、伊藤委員さんからお願いします。

【伊藤委員】

統合準備委員会で十分話し合われてこの結果になったのであれば、銚子中学校でいいと思います。先生方も大変忙しいですし予算も限られている中で、変更するための費用や時間を子ども達に使うのは、教育の中身、ソフト面を充実させるということでもありますので、いい事であると納得しております。

【安藤委員】

私も今の内容については統合準備委員会で検討された結果ですのでそれは尊重したいと思っております。教育委員会の会議の方でもいろいろ議論をしてきましたけれども、やっぱり統合というのはいろんな方々の痛みを伴うし、市の方とすれば財政負担を伴う訳で、決して簡単に考えてはいけない事だと思います。

今の状況の中で非常に丁寧な手順を踏んで進めてきていると考えます。

【松崎委員】

結論から言えば統合準備委員会の意見を尊重します。各小中学校の校長先生、PTAの代表の方、地域の方に集まっていただいてご検討いただいた訳ですし、どの意見についても納得のいくものですので、この結論を尊重しようと思います。

【藤本委員】

統合準備委員会でいろいろと議論されました結果ですので尊重すべきだと思います。こういう時はよく自分の学校のをいろいろ入れ込みたくなって時間やお金がかかってしまうところですが、今回はスムーズに子どもの教育のために使うと決定されたということで非常によい議論をされたのではないかと思います。

【石川教育長】

私も統合準備委員会の場に同席をしておりましたが、例えばPTAの方とか地域の方が学校名に対していろいろな意見を出すのではないかと感じて臨みました。一中学区の小中学校の校長先生、PTAの代表の方、地域の代表の方、同じように二中学区の小中学校の校長先生、というようにそれぞれお話をいただきました。ほとんどの方が恐らく日頃からいろいろな方といろいろな話をされていて、その上で会議に参加されたのかなと思います。その中でこれは変えるべきだよという意見は全員ありませんでした。ということは、この状況の中でやはり銚子中学校という名前であったり校章であるべきなんじゃないかという話が全体的に流れているのかなと、そういう雰囲気を感じました。

【市長】

ありがとうございました。おおむね統合準備委員会での意見を尊重しながら、今後の手続きですけれども教育委員会の定例会の方でまず承認をし、条例制定は私の方から9月議会に条例の改正の提案をさせていただき、その可決をもって正式に決定するという形になります。藤本委員さんからお話がありましたように、銚子中の方は賛

成すると当然予想できたんですけれども一中、二中、三中の方からも反対の意見がなかったという事、合意できたという事はそういう方々も銚子中学校という方向を含めて十分お考えになった上で判断をされたという事で、統合準備委員会で最終的には全会一致で決定したという点をしっかり受け止めたいと思います。

ただ一点だけ押さえておきたいことが私の方でございまして、今回校名もその他の部分も全て現在の銚子中学校のものと同じものになりましたけれども、基本はやはり銚子中が一中、二中、三中を吸収して統合するという事ではなくて、あくまで対等なんだと、四つの中学校が対等に統合してそれが現在の銚子中学校の位置に開校するという事をきちんと押さえていく必要があるという風に思っています。

昨年度統合いたしました銚子西中学校の場合も、場所は五中の場所でしたけれども、名称の方が銚子西中学校に変わったという関係で新しい中学校があそこにできたという印象を我々ももっておりますし、市民の皆さんも同じ印象であると思います。今回の場合は場所、それから校名、制服なども一緒になりますので吸収したのかと思われかねない部分がありますので是非その辺は全く新しい銚子中学校が誕生するんだという認識をもつ必要があると思います。

そして一中、二中、三中及び現在の銚子中の伝統あるいは歴史をしっかりと新しい銚子中学校に引き継いでいただいて、地域の皆さんにも東部地区みんなの思いを引き継いだ新しい新中学校であるということ、それを強調していきたいなと思います。

校名などは現在のものを引続き使うということですが、今後学校としてのビジョンといいますかグランドデザインを定めていくことになります。その中には校訓であるとか教育目標、あるいは経営の重点それから具体的な取組みをどうしていくのかを、学校において校長を先頭に定めていくことになろうかと思えます。是非その際には今までの特色ある一中、二中、三中及び銚子中、4つの学校の歴史なども踏まえてゼロから作っていただき、校名などは同じですけれども未来志向でこれからの銚子の子ども達のことを考えた上で進めていって欲しいなと考えております。

他になにかございますか。

【松崎委員】

もっといふならば、4校とおっしゃいましたが八中、四中も含めた新しい学校になると思っています。

【市長】

そうですね、正確にいふならば6つの学校を引き継いだということ肝に銘じていきたいと思えます。あと前回の総合教育会議で意見交換いたしました新しい銚子中学校の安全対策ということで、利便性からすれば間違いなく一番いい場所なんですけれども懸念されるのが敷地の一部が津波浸水想定区域にかかっているということなので徹底したハード面、ソフト面、避難訓練も含めた対策をきちんと打ち出すという事が必要だという議論をいたしました。今後設計の事業者も決定する見込みでありますので、その設計の事業者を含めて十分な協議をしながらどのような安全対策をとるのかということ議論し、具体的に設計を決定していかなければならないと思えます。前回も5階建てにして高層化するとか1階部分をピロティにするとかいろいろな意見がありましたけれども、一方で日照の問題、電波の問題、近隣住民への問題とか難しい部分もあります。いずれにしてもパーフェクトな対策は難しいとは思いますが、いざという時には子ども達や地域の皆さんを受入れる決断も必要になるでしょう。こ

の辺についてご意見がありましたらお願いします。

【藤本委員】

安全性は東日本大震災以降、今までは100年から200年を考えた津波でしたけれども1000年位のレベルでの単位になってきましたのでなかなか難しい所があります。利便性だけでなくやはり校舎を建設する時には安全性を念頭において進めるべきだと思います。ただ、それによって使い勝手が悪くなると困るので、実際に建設していく中でいろいろな情報を共有しながら重要なポイントは伝えていって進めていく必要があると思います。日本はどこにいてもリスクがありますので市長さんおっしゃっていたとおりハードだけで守ろうとするのではなくてソフト対策、防災教育なども通じていろんな学びができますし、また、災害を忘れないためにも大事だと思います。

【市長】

ハード面、ソフト面両方合わせてよりよい対策をする、使い勝手ということもありますのでどういう風にバランスをとっていくのかというのが一番重要な部分になってくるんですね。安全対策の面についても今後事業者が決まり設計段階での協議をさせていただきますので、この辺りの議論も十分に伝えていきたいと思います。

それでは次に、その他という事で令和5年度からスタートいたしますコミュニティスクール、いわゆる学校運営協議会の制度でございますけれども、これを議題とさせていただきますと思います。初めに学校教育課長からこの制度についての説明をお願いします。

【学校教育課長】

それではコミュニティスクールについて説明させていただきます。お手元にあります学校・家庭・地域連携だよりをご覧くださいながらお聞きいただきたいと思います。

銚子市では令和5年度、来年度からコミュニティスクールを市内の小中学校、市立高校、全ての学校で導入する予定としております。コミュニティスクールというのは学校と地域が学校教育目標やビジョン等を共有してパートナーとして一体となって子ども達を育む、という仕組みになります。一般的には学校運営協議会というのを設置している学校をコミュニティスクールと呼んでおります。学校運営協議会と申しますのは教育委員会から任命された委員が一定の権限をもって学校の運営そしてそのために必要な支援について協議する合議制の機関のことです。

コミュニティスクールでは学校運営はこれまでどおり校長の権限と責任でおこなわれますが、コミュニティスクールの委員である保護者、地域の方々もより深く学校運営に参画していきます。実際の学校運営協議会の場では校長の学校運営方針の承認や教育活動に必要な支援等に関して課題解決を目指して話し合っていきます。今現在の学校評議員制度と似ておりますが評議員とコミュニティスクールの委員の違いは、学校評議員の方は校長の求めに応じて意見を述べる、というものですが、それだけではなくて学校の経営計画や運営組織などを承認するという責任をもっている、そして学校運営に深くかかわる建設的な意見を述べるのが期待されている、という所です。

委員の役割として代表的なものを3点ご説明します。1点目は校長が作成する学校運営の基本方針を承認することです。育てたい子ども像や目指す学校像に関する学校運営のビジョンと一緒に共有していきます。2点目は学校運営状況について意見を述べるができるという事です。運営状況の評価や運営に必要な支援に関して協議を

し、意見を申し出ることができます。3点目は教職員の任用に関して教育委員会に意見を述べるができる、という事です。ただし、意見の内容については協議会の趣旨を踏まえた建設的な意見に限る、という事や、個人を特定しない、一般的な意見に限る、という事を教育委員会規則で定めてまいります。

ではなぜ今コミュニティスクールの導入なのかという事なんですけれども、ご承知のとおり近年子ども達を取りまく環境、学校が抱える課題というのが複雑化、多様化してきておりまして、学校だけでそれらを解決することが困難になっている、という事が理由としてあげられます。複雑で多様になった課題の解決に向けては社会総掛かりで教育を実現していくことが不可欠であるといわれております。学校と地域で子ども達がどのような課題を抱えているのか、どのような子どもを育てていくのかという目標やビジョンを共有して共に子ども達を育てていく体制づくりの柱としてコミュニティスクールの導入が求められております。

現在コミュニティスクールの設置の方は努力義務という状況ですけれども、文部科学省また千葉県教育委員会はこの取り組みをより推進していこうとしております。銚子市が属する北総教育事務所管内でも少しずつですが導入に向けた動きが加速してまいりまして、北総管内16市町のうち10の市町で次年度から何らかの形でコミュニティスクールを導入していくというように聞いております。このような現状を踏まえまして、銚子市では昨年度から学校教育課内にコミュニティスクール設置委員会というものを設置しまして導入に向けて準備を進めてまいりました。本年度は校長会議でのコミュニティスクールの説明、また県の担当者を招いての研修会の実施、学校訪問での各校職員への周知をおこなっております。今後は来年4月の導入を目指しまして保護者や地域の方々にもコミュニティスクールを知っていただくための広報活動をおこないまして、学校・保護者・地域の深い協力を得ながら各学校の実態に応じたコミュニティスクールの導入を進めていきたいと考えております。以上で説明を終わります。

【市長】

ありがとうございます。これまでの学校評議員制度から学校運営協議会、いわゆるコミュニティスクールに令和5年度から変わるということでございます。これまでに比べると権限もだいぶ強くなるようございまして、今まで意見を求めるという事だけでありましたけれども学校の基本方針などについては同意を求めるものになります。個人を特定しない範囲において教職員の任用についても意見を述べるができる、いわゆる人事的なものについても意見を述べるができるというものでした。学校評議員の人数は5人程度でございますけれども、学校運営協議会は今のところ10人以下という想定ですのでより幅広い方々に参加していただくという事になります。より地域と連携しながら学校運営をしていくという文部科学省の考え方の表れともいえます。ではコミュニティスクール、学校運営協議会の制度につきまして意見等をお願いします。

【松崎委員】

学校評議員という制度が今回コミュニティスクールという制度により発展するということでもあります。私も以前学校評議員をやったことがあるんですが意見をいうことができてもそこまで終わるという事がありますので、地域の方々により密着してご理解とご協力を得るという観点からもコミュニティスクールは効果があるものだ

と思います。今までやっていない事ですので運営の仕方が難しいかもしれませんが、この制度自体はかなり前から導入している学校もありますので、そこからよく学んでよい所をどんどん吸収して欲しいです。地域と共にとというのはどの学校でも教育目標に掲げているところだと思いますので、それを実現するためにより効果的にできる制度だと思います。効果的な運用も期待します。

【市長】

制度とか形だけではなく中身、どういった議論をしてどういった効果があるのかというところが大事なんじゃないかということですので、形骸化することのないようにこの制度を利用して学校運営を盛り上げていく必要があると思います。

【藤本委員】

コミュニティスクールの導入には賛成です。実は今日午前中に匝瑳市にいきましてコミュニティスクールをされているある学校の運営協議会に出てきたんですけども、学校だけでなんでも問題解決できるわけではなくて地域の方や保護者の方が入っていただいて解決していかなければならない問題もあるんです。私は防災専門なんですけど、どうしても防災の問題は学校の先生だけでできることというのは難しく、例えば今日伺った学校は避難所の問題を話しておりました。避難所となるとあまり意識がない方は市が指定しているから学校の先生がやってくれるでしょうという考えが多いんです。先生がいればよいのですが土日とか夜間のできないときに地域の方々も入っていただくよう話をするとということが非常に有益になってきます。その中で建設的な意見をちゃんとってもらえる仕組みを作っておかないと、自分たちの要望だけというようなものになってしまう。先ほどの話題の統合準備委員会も皆さん目的意識が統一されていたのかよいところに議論がいていたようです。ぜひ、コミュニティスクールを展開していくときにも何のためにやるのかということを経験しながら建設的な意見が出るような仕組み作りをやっていただけると、非常に効果的なものになるかと思っています。

【市長】

言いつばなしの会議ではなくて、いい意見が出てこれは活かせるなというものがあれば具体的に話を進めるようにすると委員の皆さんもやりがいを感じられると思います。藤本委員の言われた避難とか防災など、市や学校で計画を作って避難訓練をやっているんですけども避難場所だとか避難経路が実践できるかどうかという問題も含めて防災のテーマについてはこのコミュニティスクールの中で話し合うという事も必要となるのではないのでしょうか。

【教育長】

現在コミュニティスクールと同じような形のものを、各小中学校においてやっております。いろいろな立場の方に、それぞれその場その場で来ていただいて協議をしています。今回の学校運営協議会については立場を超えた方が一同に会していただいて、子ども達それから地域、学校の事を全て同じ土俵で協議をします。今学校に求められている非常に大事な事なのかなと思います。校長先生の中には不安がっている方もいらっしゃるんですけど、やはり導入した事によってわかってくる改善点を徐々に修正していったら早くいい方向に流れた方がいいだろうという事で、来年から導入したいとお願いしています。

メンバーについても学校の方で選んでいただいてこちらで任命する形になるんで

すが、今まで全然学校に関わったことのない方をピックアップしてという事ではなくて、今までいろいろな面でかかわってきている方を改めて選んでいただければ、メンバー選出についても何ら問題ないと思います。他市でも校長を務めた経験がありますし他の方に言われたこともあります。銚子の地域が学校を支える力というのは非常に大きいんです。そういう意味では今までやっていることを改めて形作る時に、市内どの学校でも高低差なく地域の方にも学校を支えていただこうと、そういう意味ではいろいろな面でハードルはありますがやりがいのある運営協議会になると考えています。

【市長】

テーマの設定の仕方をいろいろ定めると議論も活発化すると思います。基本的な学校の運営方針もありますが、学校の防災とか今非常に話題になっている教職員の働き方改革とか、こういうテーマで話し合おうと工夫されるとさらに有効なコミュニティスクールになるような気がします。

【安藤委員】

ここまでの議論を伺っていて非常に私も勉強になりまして、いろいろな事を考えていたんですけど、学校というのは少なくとも日本の場合にはどうしても行政が中心になって進めて、地域の方々と保護者の方々が関わるとしても時にはアドバイスなどが必要になってくる。今までの方々のご意見を聞いて総論的な事として学校というのは家庭・地域と連携しながら進めていかなければならないというのは当然の事として、実際にやるとなるといろいろな難しさがある。それは今までの話に出たとおり委員に選出されたらその方の意識も変わってもらわないと困りますし、学校の先生方も今までの学校のあり方、今までの学校のやり方としては決して間違っていないんですけども、それとは違うやり方を模索しなければならない、というような状況に直面するんじゃないかな、という気がします。

防災関係の話が出ましたけれども、学校がやる事というのは否が応でも社会でなされることの一部を学校で受けるみたいな部分もあるし、学校の専門的な領域もあるわけですね。例えば教科指導のような専門的な領域の部分にどこまで立ち入ることができるのか、どういう風に立ち入ることができるのか、そういう事もよくよく考えていかなければならないと思います。

市内の学校訪問をさせていただいて常々感じるのは、銚子の教育というのは本当に盤石というか非常に基礎がしっかりしていて、地域にバックアップされている状態がありまして先生方もそれに答えようとして頑張っていると思います。非常にいい形で進んでいると思うので、いろんな難しさがあるんですけども、ここは月並みな言い方をすればピンチをチャンスにして新しい銚子の教育のスタイルが生まれるのではないかなと期待します。

【市長】

おっしゃいますように委員の皆さんもいい意味で変わっていく、自分事として考える機会にさせていただいて、今まであまり学校経営に口出しできないと思っていた方もきちんと対等の立場で入っていただけるようになります。資料にも書いてありますが、委員の中に学校の教職員なども入れるような仕組みになっていますので、地域の皆さんだけではなく教職員としての本音の部分も出していただきながらきちんと議論していただく事も大事だと思います。

学校開放とよく言われるんですが、なかなか難しい面がありまして、施設を管理する側から言うと万が一の事があってはいけない、地域からすると学校を開放してもっと自由に使わせてくれないのかと意見が対立する関係も出ていると思いますので、そのようなテーマなども是非コミュニティスクールというものを有効活用していただければと思います。

【伊藤委員】

コミュニティスクールは大変でしょうけれども頑張っていたきたいと思います。もし自分がこの委員になったらとシュミレーションしてみたら、保護者の考えるいい学校と先生方の思っているいい学校、地域の方の思っているいい学校は微妙に違って、その時それぞれが忌憚のない意見を言いつつお互いの異なる部分にも納得しつつ運営していければとてもいい形になると思えました。校長先生方の中で何人か来年から始まることに不安を覚えているという気持ちもわかります。初めてやる事でどんな風になるか、メリットはすごくわかりますがデメリットはどんな事が出てくるかわからないから不安になるんですけど、デメリットはデメリットでずっと残るのではなくて、みんなでそのデメリットを話し合っただけでメリットに変えるというような会議にされると本当にいい会議になりませんか。皆さん子どもがすすくとちゃんと育つという1点の目標は同じでぶれないと思うので、うまくいくように教育委員会としてできるだけプッシュして進めていただきたいと思います。

【教育長】

最終的に本音で話ができないと、建前だけではいくら学校運営協議会という場を設けても形式だけで終わってしまう。やはり校長を含め地域の方がこの学校をどうするかと本音で意見交換しない限り変わらない、そういう意味では校長さん方には本音で学校の課題とかを地域の方に隠し立てなく言ってもらって、それで意見を介してもらい議論をしていく。そうしないと学校は変わりません。基本的にこの学校運営協議会は学校が閉鎖的だという所が出だしですのでそういう事のないように校長先生方には話していきたいなと思っています。

【市長】

個人情報には十分留意する必要があるんですけども、その上でこういう課題があるんだよときちんと学校としても出していただく、それが本音の議論につながる第一歩かなと思います。ある意味では校長先生の手腕といいますかリーダーシップによって中身のあるものになるのか形だけのものになってしまうのか、来年スタートという事で途中経過も随時この総合教育会議にもご報告をいただきながら関心をもっていきたいと考えています。

【伊藤委員】

あと教育委員会の任命の件にも意見が言えるという事で、この一文をみるだけでも自分がもし先生だったら子どもを叱ったら保護者に何か言われて自分が不利益を被るのではないかと感じてしまいます。そういう風に思わないようなシステムというか、私も学校訪問をして先生方をみているとみなさん自分の信念に基づいて一所懸命やってくれているので、やっぱり先生の思う教育と保護者の思う教育が少しずれてしまってもそれが悪い方にならないように考えながらやれたらいいのではないのでしょうか。

【市長】

先生方が委縮してしまっただけでは仕方ないですからね。

【伊藤委員】

逆に子ども達によくない方向にいつてしまわないようにお願いしたいです。個人を特定しないという前提はあるにしても、ある程度想像で特定されてしまうかもしれないです。

【市長】

小さい学校だと類推されてしまうかもしれません。全体としてこういう所を改善したらいいよというような任用の意見なら大丈夫でしょうけれども、他に具体的な例は何かありますか。

【学校教育課長】

先ほど申しましたように、個人名は出しません。他に具体的な例としてはこの学校はICTに力を入れたいのでそういう事が堪能な先生を希望するとか、国際教育に力を入れたいので外国語が堪能な先生が欲しいとか大きな部分での任用という事になります。

【伊藤委員】

個人を特定しての任用ということではないんですね。わかりました。

【市長】

建設的な任用に対する意見が大前提なんですね。

それではコミュニティスクールについては以上となります。

その他、この機会に教育委員さんからご意見ありましたら伺いたいと思います。給食費の無償化についてご意見があると伺ったのですが。

【伊藤委員】

報道で千葉県知事が給食費の無償化をいわれてるんですけど、銚子市では給食費についてどのようにお考えですか。

【市長】

6月の議会でも表明させていただいたのですが、今年度については新型コロナウイルス対策の地方創生交付金を活用して無償の期間を設けたいという風に思っています。千葉県の方でも今、第3子について無償化をする市町村に対して、県が負担をするように知事が意見表明していますので県の制度設計を待っている所です。来年度以降も今原材料費が値上がりしておりますので出来れば一定の割合で、市で助成をさせていただいて全体として今よりも負担が下がるような制度設計をしていきたいと思えます。

一番問題となるのが財源でございまして、まだまだ銚子市の財政状況は2、3年厳しい状況が続くそうなんですけど、そういった中でもきちんとした財源の確保が必要です。今年度は地方創生の交付金、来年度は是非ふるさと納税を拡充しながらそれによる収入のアップを給食費の助成の方に振り向けたいということで、ふるさと納税の強化チームを作りまして具体的な取組みを進めていきたいと思えます。現在の銚子市のふるさと納税は年額で3億円弱なんですけれどもできればこれを5億、10億にアップして、給食費の全額負担までは無理にしても一定の割合を助成するためにふるさと納税をアップさせながら続けていきたいというビジョンを持っています。

次に学校現場では人が足りないので、増員することによって教育効果を高めたいと

いうご意見を伺っております。

【松崎委員】

学校に問題が山積しているといいますが、その解決策の一つとして人員の増員をお願いします。特にお願いしたいのが各学校に配置されている特別支援補助員さんの増員ができればという事です。現在26名小中学校に配置していただいて大変ありがたいと思っています。しかし、普通学級に通う特別な支援が必要なお子さんの数は年々増えていると思います。

特別支援補助員はすごく機能しているんです。授業をしていても非常に落ち着いた状態でできていて、補助員の方が脇についていることによってその子どもも落ち着いていられるし学級全体としても落ち着いた中での授業が展開されています。ただ人数的にもう少し増やしていただければもっと多くの子ども達に利益が還元できるのかなと思います。お金の事で恐縮なんですけど、特別支援補助員さんについては各校から要望が挙がってくるかと思うんですが、できるだけ要望に則した形で配置していただければ大変ありがたいです。

【市長】

要望どおり対応しきれない状況で、学校としては特別支援補助員さんが十分に機能しているということで、市としては先ほどのふるさと納税と連携ではないんですけども財源を生み出しながら教育や子育てにきちんとお金をあてていくという運営をしていければと思います。加配は多ければ多いほどいいんですか。

【松崎委員】

基本的に県で加配していただけるものもありますが、全部には行き届かないのでそこを市でお願いしたいです。今後、部活動に関しても同様のことが発生するのではないのでしょうか。

【市長】

部活動に関しては上手くいっている例も他市ではあるのでしょうかけれど、民間の方を起用するのはなかなか難しいです。いろいろな垣根を越えていかななくてはならないし、地域との連携もやはり必要になってくるのではないのでしょうか。

そのほかに何かございますか。

【藤本委員】

昨今通学路の安全性の面で、通学路の点検などされているんでしょうけれど、それを更にやっていただけるとよいかと思います。最近、国内でも雨の被害が多いので、銚子は高校付近に崖がありますのでその付近が気になります。

【市長】

交通事故については八街市の件を踏まえて通学路の点検をかなりやりましたけれども、豪雨に関する通学路の点検は改めて必要かもしれません。

【安藤委員】

統合に関して気にしなければならないところは、東部地区中学校が統合する事が決まったとしてもこれから実際に動くまでにまるまる5年あります。今まで銚子西中学校の場合とかをみていまして、統合が決まってから実際に統合するまでの間の各学校の状況はなかなか厳しいものがあります。それは市長さんというよりは教育委員会の方で十分に留意しながらいろんなサポートをしなければならないという風に思っています。

それから社会教育の点で、銚子のジオパークにしてもいろんな文化財があって教育部分だけでなく、銚子の行政全般、観光とか経済的な波及効果も含めていろんなところに影響が及ぶと思います。それを考えた時に文化財とかジオパークの行政を支えている組織がなかなか厳しい状況にあるということで、いろんな連絡協議会みたいなものがあって、各市役所の組織に関わっているということは私も存じてますけれども、やるべき事が多くて職員さんの負担が大きくなっている感じがします。その辺のところを少しお考えいただければと思います。

【市長】

おっしゃるように、ジオパーク、文化財、非常に大事な部分でこの間も旧公正会館が国の登録文化財に指定の答申を受けたというところですので、いろんな幅広い分野でやるには市役所の体制、学芸員も含めた人員の不足など、本気で取り組んでいくために人材の面でも充実させ、民間の皆さんやいろんなところと連携していけるように市役所の体制を充実させていかなければいけません。

また、四中と八中の時もそうだったように統合が決まると前倒しで統合される中学校への入学希望者が増えまして、結果的に1、2年位統合が早まったという事がありました。今回も銚子中に皆さん希望されて一中、二中、三中が小規模校になってしまい学級や部活の運営などが厳しくなるという事も想定して、それに対する支援をどういう風に考えていくか、教育委員会さんと連携しながら決しておろそかにすることのないように進めていくべきだと思います。

予定の時間が参りましたので、以上で、総合教育会議を終了させていただきたいと思います。本日の意見交換を踏まえて今後しっかりと対応していきたいと思いますので、よろしくをお願いします。ありがとうございました。

以 上